

For T

株主の皆様へ

『経営戦略2015』の最終年度。
2020年頃のあり姿の
実現に向けた戦略を着実に実行し、
「継続的企業価値」の創出を
図っていきます。

the Future

非資源分野が過去最高益となり、 通期業績見通しを上回る4,006億円を達成

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

2014年度決算および2015年度通期の見通しについて、ご報告申し上げます。

2014年度の三菱商事グループの当期純利益は4,006億円、前年度と比べて392億円(10.9%)の増益となり、通期業績見通し4,000億円を上回る結果となりました。資源分野では、減損損失の計上などにより減益となりましたが、非資源分野では、ファンド関連事業や畜産事業など全体的に好調に推移したことなどにより、過去最高益を達成しました。

また、2015年度は、資源分野は資源価格の低迷の影響などにより、引き続き厳しい事業環境にあります。非資源分野を

中心とした安定的な収益基盤を持つ三菱商事グループの強みを活かし、通期業績見通し3,600億円の達成を目指します。

なお、2013年度からの3年間は、事業環境の変化にかかわらず、一定の配当を行えるよう、1株当たり年間50円の安定配当に加え、連結純利益3,500億円を超える利益部分について30%以上の株主還元を行う方針としています。この方針に基づき、2014年度の年間配当は、通常配当60円に創立60周年の記念配当10円を加え、70円となりました。また、2015年度の年間配当は、通期業績見通し3,600億円を達成した場合、3,500億円を超える100億円を全額配当する方針とし、1株当たり56円を予定しています。

成長イメージの実現に向けた新規投資に加え、 ポートフォリオの最適化・資本効率の向上を図る

三菱商事は、2013年5月に策定した『経営戦略2015』において、長期目標イメージとして掲げる2020年頃のあり姿の実現(「事業規模の倍増」「強い事業を伸ばす」「財務の健全性を維持しながら、ROEの回復を図る」)に向けた戦略を着実に実行しています。

2013～2014年度には、計1兆5,600億円の新規投資を実行したことに加え、ポートフォリオの最適化を図るため、資産の入替えを積極的に推進するとともに、事業領域の再構築を進め、事業領域数を当初の47から39に絞り込みました。

また、資本効率の向上を図るため、2015年5月の取締役会において、1,000億円または4,500万株のいずれかを上限とする自己株式の取得を決議しました。

2015年度は、『経営戦略2015』の最終年度となります。三菱商事グループ一体となり、長期目標イメージとして掲げる2020年頃のあり姿の実現に向けた戦略を着実に実行し、「継続的企業価値」の創出を図っていきます。

今後とも、株主の皆様のご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。

2015年6月

代表取締役 社長

小林 健

